

《セレナータ(変ホ長調)》¹

水谷 彰良

セレナータ(変ホ長調) *Serenata*

作曲 1823年、パリ

初演 不明

編成 フルート、オーボエ、ホルン・イングラーゼ [イングリッシュ・ホルン]、ヴァイオリン I・II、ヴィオラ、チェロ

演奏時間 約7分

自筆楽譜 おそらく消失。重要な筆写譜がミラーノのヴェルディ音楽院図書館 (Milano, Biblioteca del Conservatorio "G.Verdi", Fondo Nosedà, V.16.18) に所蔵され、その筆写譜はニューヨークのパブリック・ライブラリー (New York, New York public Library, JOB 03-5) に所蔵²。

初版楽譜 Breitkopf und Härtel, Leipzig, 1828.³ [パート譜]

現行譜 *Quaderni Rossiniani VI* 及び下記の批判校訂版

全集版 未成立。批判校訂版は *Works of Giachino Rossini*, vol.1. Chamber Music without piano, Bärenreiter, 2007. [略号: WGR-1]

構成 不明 (変ホ長調というのみ)

解説

自筆楽譜消失と推測されるが、重要な筆写譜がミラーノのヴェルディ音楽院図書館に所蔵されている (その筆写譜はニューヨークのパブリック・ライブラリー所蔵)。タイトル記載は、「著名なマエストロ G・ロッシーニ氏が、彼の友人ヴィンチェンツォ・ビアンキのために特別に作曲したセレナータ。パリ、1823年 (Serenata / espressamente composta / dal Célèbre Sig. M.ro / G. Rossini / pel suo Amico Vincenzo Bianchi / Parigi 1823.)」。これが事実なら、ロッシーニ最初のパリ滞在中の1823年11月9日から12月7日の間に作曲されたことになる。被献呈者ヴィンチェンツォ・ビアンキ (Vincenzo Bianchi, ?-?) はパガニーニの弟子のヴァイオリニストと思われるが、ロッシーニとの交友関係を示す資料は現時点で見出せない。

曲は、変ホ長調、6/8拍子、アンダンテ。短い序奏に続いてロッシーニらしい旋律を第一ヴァイオリンが提示・変奏し、オーボエがこれに続く。ト長調に転じてフルートが華やかなパッセージを繰り広げ、変ホ長調に戻るとホルン・イングラーゼ、チェロと続き、全楽器の華やかな総奏の終結部に至る。

推薦ディスク：

- ・ Ex Novo Ensemble (1991年録音 Giulia GS201001 / Arts 47321-2)



¹ 初出は『ロッシニアーナ』第35号所収「ロッシーニ全作品事典(30) ロッシーニの器楽曲②」。HP用の改訂版、2015年4月。

² Gossett-2001 (*The New Grove Dictionary of Music & Musicians*, 2-ed., Macmillan, 2001. 所収) が自筆楽譜とするのは誤り。

³ Gossett-2001は「1829年」だが、WGR-1で「1828年」に修正された。